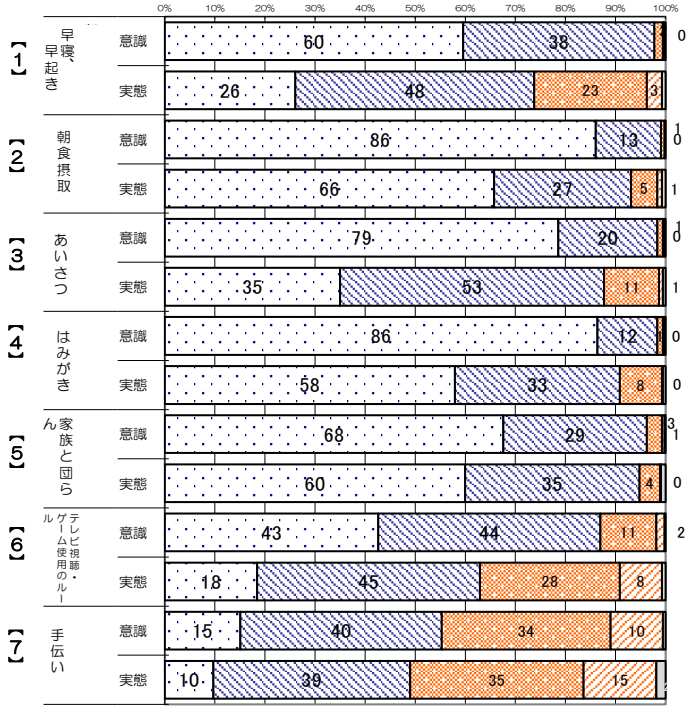
# 令和５年度 家庭の教育力に関する調査結果　～令和６年３月実施～

・・・７項目についての意識と実態・・・

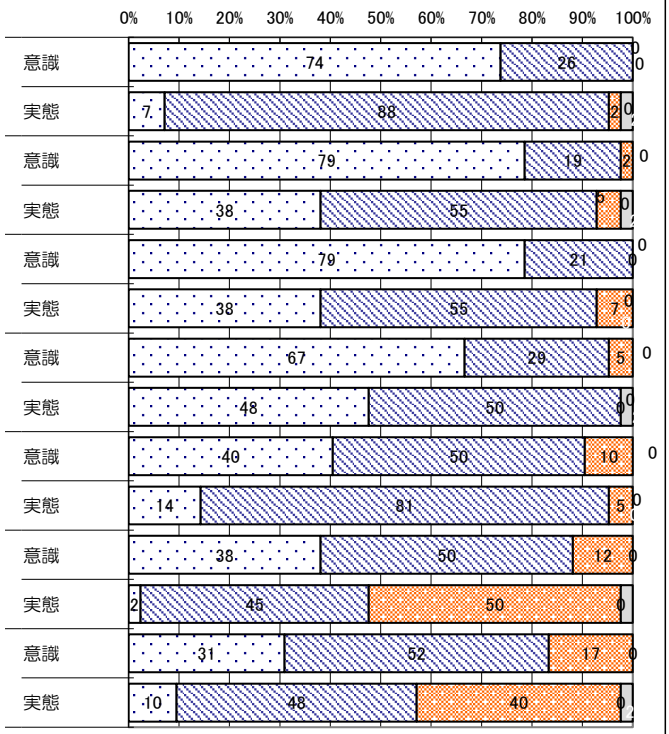
市内の保育園・幼稚園・認定こども園に在席する年長児の保護者・園の担当者を対象に、右の７項目について、
① 意識して子どもと接しているか
② 子どもの様子はどうなっているか
という設問で、アンケートにご協力をいただきました。
市内約80%の年長児の保護者、４２園の園担当者からの回答について、以下のような結果となりました。

＜調査項目＞
【1】早寝、早起きをする
【2】朝食をしっかり食べる
【3】あいさつをする
【4】歯磨きをする
【5】家族と団らんする
【6】テレビ視聴・ゲーム使用のルールを決めて守る
【7】手伝いを決めて毎日行う

保護者の意識と子どもの実態




園担当者の意識と子どもの実態




意識している 身についている
どちらかというと意識している どちらかというと身についている
どちらかというと意識していない どちらかというと身についていない
意識していない 身についていない
無回答

〔 各項目、上段は「意識して子どもと接する」、下段は「子どもの様子」についての回答結果 〕

## ・ 回答結果から ・

・７項目について、子どもの実態を「どちらかというと身についている」まで含めて平均すると、78.9%の保護者、82.7%の担当者が、肯定的に捉えている。（保護者・園担当者両方の平均は、80.8%）
・基本的生活習慣の定着状況に絞り、【1】【2】【3】【6】の４項目を平均すると、79.4%の保護者、82.1%の担当者が、子どもに身についていると捉えている。（保護者・園担当者両方の平均は、80.75%）
・子どもの実態の捉えについては、「どちらかというと身についている」まで含めると、全体的に保護者と園担当者では同じ傾向にある。
・「テレビ視聴・ゲーム使用のルール」は、意識して取り組んでいる保護者の割合が87%と高いが、子どもの実態を肯定的に捉えている保護者は62.9%、園担当者は47.6%であり、ルールを意識させたい保護者や園担当者と子どもの実態との差が見られている。
・「手伝い」については、他の項目と比べ大人の働きかけが弱く、子どもの実態も「身についていない」と捉えられている。
・保護者から見た子どもの実態における肯定的回答（「身についている」）での比較では、「家族と団らん」が94.8%、「朝食摂取」が93.1%と高く、次いで、「歯磨き」、「あいさつ」となっている。
・「早寝・早起き」について、ほとんどの保護者が意識してかかわっている。しかし子どもの実態については、約1/4の保護者が身についていないと捉えていることから、課題を感じながらも力を入れて取り組んでいる様子が伺える。

## ・ 今後の課題 ・

★「家族でニコニコチャレンジ」は継続し、家族での取り組みを促しながら、子どもの自立心を育むとともに基本的生活習慣の定着を図っていく。
★幼児期の望ましい基本的生活習慣の定着に向け、園と家庭が連携しながら取り組めるような情報発信の仕方を工夫していく。
★手伝いの実施については「自己有用感」「自立心の育成」「親子でのふれ合い」といった観点からも取り組みを継続していく。
★各園や小学校などの関係機関と連携を深めながら、家庭の教育力向上への取組を継続していく。
★デジタル機器の使用等については、デジタル機器の利用・活用が重要視されている社会であることを踏まえつつ、幼児期は使いこなすのではなく、使用ルールを家族で決め、守ることの大切さを発信していく。（具体的なルールは家族の実態に合わせ、話し合って決めることを促す。）
★「ニコニコガイド」等を活用し、幼児期に特にも大切に育みたい力について周知を図っていく。